ともしび

志摩組広報

編集・発行
浄土真宗本願寺派
「御同朋の社会をめざす運動」
（実践運動）
志摩組委員会
2024（令和6）年3月

親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年の慶讃法要参拝を終えて

志摩組組長　浄円寺住職　寺本　一道

この度の慶讃法要への団体参拝を二年前から計画を立て、志摩組の寺院、ご門徒の方々に参加を呼びかけました。

希望人数を元に組長会で人数や日程の調整を行い令和五年四月十二日～十三日の一泊二日に決定しました。

副組長と実際に車で糸島半島を回って、迎えのバスの場所と所要時間の確認も行いました。

当日の朝は皆さん、きちんと時間通りに待っていてくださり、まずは安心しました。久しぶりの新幹線で一路京都へ。

昼食後、京都国立博物館で親鸞展を拝観しました。

京都国立博物館

大谷本廟

九人の方が帰敬式を受けられるのでタクシーに分乗して本山に向かいました。

良い法名を頂いたと言ってくださる方もおられました。

他の方々はその間、大谷本廟へお参りをされました。

ハトヤ瑞雲閣での夕食は、お酒もはいり、大変楽しく盛り上がり、親睦を深めることができました。

翌朝六時からの晨朝勤行では阿弥陀堂で讃仏偈、御影堂で正信念仏偈を拝読しました。正信偈は歌うような感じで皆初めてでしたが、だんだん読み方に慣れてきました。

十時からの慶讃法要には全国から続々と参集され、その数一三〇〇人はおられたでしょう。志摩組は幸い前の方に座ることができました。

立派な荘厳に雅楽の演奏、厳粛な気持ちになりました。多くの僧侶方が堂内を巡る行堂もあり厳かな雰囲気に満ちていました。

お勤めは、このたびの新たな法要作法として制定された「新制御本典作法第二種」を全員で心を込めて拝読しました。その後、御親教（御門主様のお言葉）をいただきました。

青蓮院

その後は親鸞聖人が九才で得度された青蓮院にお参りしました。錦市場にも寄りました。

バスで最後の一人まで見送った後はほっとしました。

参加者の皆さんにとっても、私にとっても忘れえない尊い本山参拝になりました。　合掌

宗祖親鸞聖人

ご生涯

平安時代も終わりに近い承安三年四月一日(新暦一一七三年五月二十一日)、親鸞聖人は京都の日野の里で誕生されました。父は藤原氏の流れをくむ日野有範(ひのありのり)、母は吉光女(きっこうにょ)と伝えられます。親鸞聖人は養和元年(一一八一)九歳の春、伯父の日野範綱(のりつな)にともなわれて、慈円和尚(じえんかしょう)のもとで出家・得度をされ、範宴(はんねん)と名のられました。ついで比叡山にのぼられ、主に横川の首楞厳院で不断念仏を修する堂僧として、二十年の間、ひたすら「生死いづべき道」を求めて厳しい学問と修行に励まれました。

しかし建仁元年(一二〇一)親鸞聖人二十九歳のとき、叡山では悟りに至る道を見出すことができなかったことから、ついに山を下り、京都の六角堂に一〇〇日間の参籠をされました。尊敬する聖徳太子に今後の歩むべき道を仰ぐためでありました。九十五日目の暁、親鸞聖人は太子の本地である救世観音から夢告を得られ、東山の吉水で本願念仏の教えを説かれていた法然聖人の草庵を訪ねられました。やはり一〇〇日の間、聖人のもとへ通いつづけ、ついに「法然聖人にだまされて地獄に堕ちても後悔しない」とまで思い定め、本願を信じ念仏する身となられました。

善信聖人絵［重文］

法然聖人の弟子となられてからさらに聞法と研学に励まれた親鸞聖人は、法然聖人の主著である『選択集』と真影(しんねい)を写すことを許され、綽空の名を善信(ぜんしん)と改められました。そのころ法然聖人の開かれた浄土教に対して、旧仏教教団から激しい非難が出され、ついに承元元年(一二〇七)専修念仏が停止されました。法然聖人や親鸞聖人などの師弟が罪科に処せられ、親鸞聖人は越後(新潟県)に流罪。これを機に愚禿親鸞(ぐとくしんらん)と名のられ非僧非俗の立場に立たれました。

このころ三善為教の娘・恵信尼(えしんに)さまと結婚、男女六人の子女をもうけられ、在俗のままで念仏の生活を営まれました。建保二年(一二一四)四十二歳の時、妻子とともに越後から関東に赴かれ、常陸(茨城県)の小島や稲田の草庵を中心として、自ら信じる本願念仏の喜びを伝え、多くの念仏者を育てられました。元仁元年(一二二四)ごろ、浄土真宗の教えを体系的に述べられた畢生の大著『教行信証(きょうぎょうしんしょう)』を著されました。

親鸞聖人影像 安城御影副本［国宝］

嘉禎元年(一二三五)、親鸞聖人六十三歳のころ、関東二十年の教化を終えられて、妻子を伴って京都に帰られました。『教行信証』の完成のためともいわれ、主に五条西洞院に住まわれました。京都では晩年まで『教行信証』を添削されるとともに、「和讃」など数多くの書物を著され、関東から訪ねてくる門弟たちに本願のこころを伝えられたり、書簡で他力念仏の質問に答えられました。

弘長二年十一月二十八日(新暦一二六三年一月十六日)、親鸞聖人は三条富小路にある弟尋有の善法坊で往生の素懐を遂げられました。九十歳でありました。

令和五年度 研修会活動紹介

怡土組志摩組合同総代研修会

令和五年十月十八日(水)
怡土組金照寺・玄海(懇親会)

志摩組東ブロック門徒講座

令和五年十月二十二日(日)
徳正寺

仏教婦人会一日研修旅行

令和五年十月三十一日(火)
本願寺佐賀教堂

志摩組南ブロック門徒講座

令和五年十一月十三日(月)
法林寺

志摩組同朋研修会

令和五年十一月十七日(金)
伊都文化会館多目的ルーム

志摩組総代研修会

令和五年十二月七日(木)
法正寺・山水荘(懇親会)

志摩組仏教壮年会東ブロック法座

令和六年二月三日(土)
清教寺

4年ぶりに色々な行事が出来ました。情報部にて、ご縁に遇えた一部の行事を紹介させていただきました。